

謝辞

福田養魚場4代目の福田範史氏には粗校に目を通していただき、貴重な写真を提供していただきました。深く御礼申し上げます。

参考文献

- 秋山玄. 2005. 浜名湖のうなぎ・スッポン ルーツは深川千田新田一. P. 1-5. 江東区教育委員会(編). 江東ふるさと歴史研究(6). 江東区教育委員会, 東京.
- 後藤康人. 2015. 養鰻業経営体数の都道府県別推移(1954~2013). 日本爬虫両棲類学会第54回大会ポスター発表.
- 大村清友・栗橋信. 1927. すつぽんと亀. 文化生活研究会, 東京. 283p.
- 鳥取県中学校教育研究会道德部会(編). 1970. 養鰻に生きる. p.4-6. 郷土の人々. 鳥取県中学校教育研究会道德部会, 鳥取.
- 山口秀美(編). 1951. 福田源衛. p.34. 因伯人物誌 第二部. 因伯人物誌刊行会, 鳥取.

八丈島におけるクサガメ幼体の報告

笹塚 諒

108-8477 東京都港区港南4-5-7 東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科

Report of a Reeve's Turtle *Mauremys reevesii* juvenile from Hachijojima Island in 2015.

By Makoto SASAZUKA

Department of Marine Biosciences, Tokyo University of Marine Science and Technology, 4-5-7 Konan, Minato, Tokyo 108-8477, Japan.

伊豆諸島の八丈島は、周囲58.91km、面積69.11km²の大型火山島であるが、海洋島であるため独自の生態系を有している。島の経済の基幹産業は花卉園芸と観光であり、また農業に向かない火山性の土壌であるため、移入植物を積極的に利用してきた。このため非意図的に持ち込まれた外来生物が非常に多いことが指摘されている(湊, 2007)。八丈島の爬虫両棲類においては、在来種はオカダトカゲ *Plestiodon latiscutatus*、ニホンマムシ *Gloydius blomhoffii* の2種のみであるが(岡本・疋田, 2009; 柴, 2016)、多くの外来爬虫両棲類が確認されている(大野, 1994)。新たに確認される外来種は増え続けており、淡水カメ類もその一つであるが知見は少ない。

筆者は去る2015年6月14日に、八丈島において外来種であるクサガメ *Mauremys reevesii* をタモ網で捕獲したのでここに報告する。捕獲場所は、八丈島の中央部にある和泉親水公園(東京都八丈町三根)の水路で、捕獲個体は、背甲長55 mm程の幼いクサガメ1頭であった(図1)。同年2月に同所で2歳のクサガメがカゴワナで捕獲された記録から(後藤, 2017)、複数個体が和泉親水公園に生息していることが明らかになった。なお、当個体は撮影の後にその場でリリースした。

同じ海洋島であるグアムでは、外来生物の移入・定着が著しく、淡水カメ類においても7種の移入が確認され、少なくとも3種が定着したと考えられている(Leberer, 2003)。八丈島においても外来の淡水ガメが定着し増殖することは十分に起こり得るため、今後の動向に注視する必要がある。

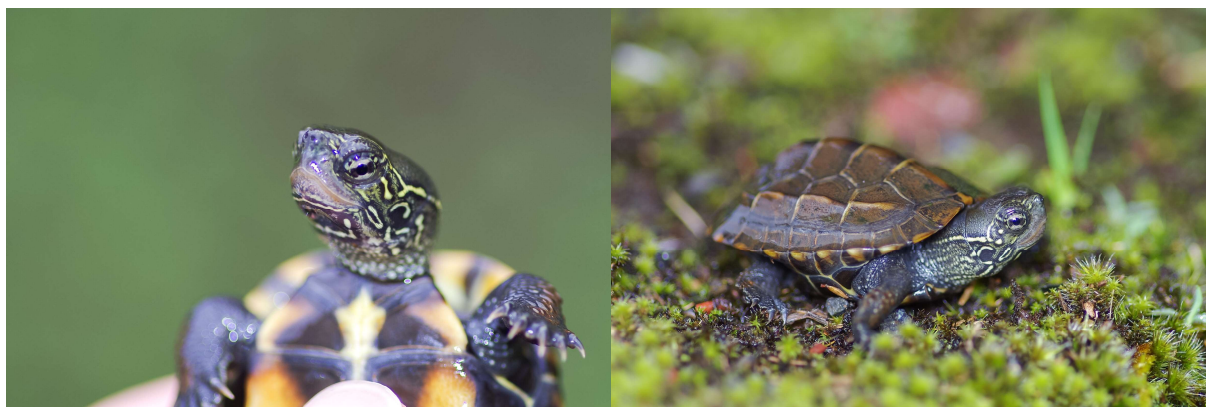


図1. 八丈島和泉親水公園にて捕獲したクサガメ幼体(2015年6月14日撮影)

引用文献

- 大野正男. 1994. 爬虫・両生類. p. 256-262. 八丈島地熱地点に係わる自然公園内環境基礎調査報告書. 東京電力株式会社・東電設計株式会社, 東京.
- 岡本卓・栗山武夫・五箇公一. 2011. 八丈島の外来性爬虫両生類の現状. 爬虫両棲類学会報 2011(1):87(講演要旨).
- 岡本卓・疋田務. 2009. オカダトカゲの分布とその起源:伊豆半島に乗ってきたトカゲ. 日本生態学会関東地区会報 58:44-49.
- 柴正博. 2016. 伊豆半島は南から来たか?. 化石研究会会誌 49(I):35-43.
- 後藤康人. 2017. 八丈島でヒキガエル駆除用カゴワナに入っていたクサガメ. 亀楽 (14):14-15.
- 湊宏. 2007. 八丈島のキセルガイ科貝類7種と他の陸産貝類数種の生息状況. ちりぼたん 37(IV):186-196.
- Leberer, T. 2003. Records of freshwater turtles on Guam, Mariana Islands. Micronesica 35-36: 649-652.